

# 世界ダウン症の日

3月21日は、世界ダウン症の日です。社会の中でダウン症をより広く知ってもらい、周囲の人がより理解を深めることで、ダウン症のある人たちがその人らしく、安心して生活していけることを目的としています。

播磨町でも、ダウン症のある人たちが、楽しく毎日を送っています。ご家族の方にお話を伺いましたので、ご紹介します。

古場 万葉さん 17歳

東はりま特別支援学校 高等部2年生です。

高校では、漢検にチャレンジしたり、最近では生徒会に立候補し、これからの1年間は生徒会活動を頑張るようです。

部活はサッカー部に所属し、練習頑張っています。試合にも出させてもらって楽しくサッカーをしています。

学校以外では週に一度、和太鼓を習いに行っています。今はコロナで発表会がありませんが、発表会の為に練習を頑張っています。

細田 欣希さん 東はりま特別支援学校 高等部2年生です。

高校では、漢字検定、パソコン検定にチャレンジしたり、音楽室で突然みんなの前でピアノを演奏してみたり、ピコ太郎を歌って踊ってみせたり楽しい高校生活を送っています。

息子が生まれた時には考えもしなかった日々を送れるのも、今まで息子とかかわってくださった方々のおかげです。

これからは、少しでも誰かの何かの役に立つ人になってほしいです。

田邊 和奏さん 22歳

今年の2月から播磨町の事業所が変わりました。のんびり、マイペースながらも頑張っています。少しずつ出来る事が増えてます。

新しい事業所にも慣れ、笑顔が増えました。これからの成長が楽しみです。





岡田和太さん 24歳

波の家就労Bセンターに電車で通所しています。

土日は神戸までダンスのレッスンに行っています。

世界ダウン症の日に合わせ3/20、3/21に神戸メリケンパークで開催するダンスイベントに参加します。

## ☆Happy Boy☆

生後ダウン症の診断を受けた22年前、1か月泣き暮らしていましたが、療育施設のセラピストや先輩ママ達に支えていただき、幼稚園、学校の先生やお友達のお陰で今があると思います。

夫とも「2人の兄がこの子を大切にしてくれるかどうか親が試されてるかもね」と子育てについてしっかり話し合いができたのも有り難く、息子3人は仲良しでいい子に育ってくれました。

ダウン症の三男は言葉によるコミュニケーションができません。でも、だからこそ200%で相手のことを観察していると感じます。表面上は優しく笑顔でも、その人の内面を感じて自分に対して心を開いているか閉じているか…を見ているようで、強面のおじさんも実はとても優しい方だったと気付かされる事もありました。

古来より日本には障がいのある子を『福子』と呼び、“大切に育てるとその家に福をもたらす”との言い伝えがあると新聞で読んだ事があります。それは本当でした。まさしくダウン症の三男は我が家の『福子』です。

ダウンちゃんママ